



レース・グラス蓋付大杯 ヴェネツィア16C  
—「器の美」より—



友禅訪問着「あじさい」 木村雨山  
—「人間国宝のわざ」より—



腰かける女 高田博厚  
—「すわる・かたち」より—

■ 近代の絵画 前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 器の美 —ガラス・陶芸・漆芸— 第2展示室

■ 人間国宝のわざ 第5展示室

■ すわる・かたち ～人体彫刻～ 第4展示室

■ 新収集品展 第3・6展示室

- 7月の企画展示室
- 平成25年度のキッズプログラム
- 企画展Topics 俵屋宗達と琳派
- 第11回バスツアー報告
- この夏注目の展覧会
- 所蔵品紹介

## 第2展示室

# 器の美

—ガラス、陶芸、漆芸—

6月28日(金)～7月21日(日)会期中無休

## 前田育徳会尊經閣文庫分館

# 近代の絵画

6月28日(金)～7月21日(日)会期中無休

すでに皆様もご存じとは思いますが、平成二十五年五月十七日、文化庁の文化財産審議会は旧加賀藩主前田家の「旧前田家本邸」（東京都目黒区駒場）と、前田家伝来の古書籍や美術品を保管する「尊經閣文庫（同）を重要文化財（建造物）に指定するように、文部科学大臣に答申しました。いずれの建造物も、前田家十六代利為侯が昭和四年から五年にかけて新築したもので、昭和初期の和洋両建築の粹を集めた優れた意匠や、その歴史的価値が高く評価されました。「旧前田家本邸」の洋館と和館は目黒区立駒場公園（旧前田邸跡地）内にあり、ともに一般公開されています。

利為侯は、十五代利嗣侯の宿願を継いで、本郷に和館を明治三十八年に、洋館を四十年にそれぞれ

れ新築し、四十三年七月には明治天皇皇后の行幸啓を迎えています。その後、本郷の東京帝国大学の敷地拡張計画に基づく同大学の駒場所有地との交換が具体化し、再度駒場に前田邸を建設することとなったのです。

前田育徳会が所蔵する近代の絵画は、本郷邸の新築に合わせて装飾用に揃えられたものがほとんどであり、その後、駒場邸の装飾用に使われたことは言うまでもありません。今日では、建物とその装飾品であった絵画や調度品は別個に保存されていますが、展示室で鑑賞者の皆様が、作品とともに往時のたたずまいを、個々にイメージを膨らませて下さい。そして、機会を見つけて、ぜひ駒場へも出かけ下さい。

器は、生命の維持に必要な食料や飲料の摂取に密接に関わってきたことから、人類の文明の発達を支えてきたといっても過言ではありません。その器への深い思いは、有史以来時代、地域を経て、様々な形に結実しました。本展は、器をめぐる壮大な文明史のごく一端を、紀元前六世紀から十九世紀までの時代、中東、西欧、中国、朝鮮、日本という地域、そしてガラス、陶芸、漆芸のジャンルからたどるものです。

最初にガラスに注目したいと思います。ガラスの製法は、古代エジプトで発達したと考えられています。砂や珪石、石灰などを高温で熱して溶融させ、それを成形する方法は、人類が経験的に習得していったものであるとの見方もできます。土器

よりも堅牢で水漏れも少なく、表面が滑らかなため汚れが付着しにくい。また金属器のように簡単に錆びない。そして宝飾品にも用いられたように美しいという特長から、ガラスの器は人類の生活の向上に大きく貢献しました。今回は古代から近世の中東、西欧の作品十五点を選び、特に美しさの追求という視点で展示します。その中には、本号表紙を飾ったヴェネツィアのレース・グラスのように、非常に高度な技法を駆使したものもあります。

陶芸では、今回鉢という形状にどのような加飾が展開されたかを、中国の明、朝鮮の李朝、そして江戸時代の作品で概観します。さらに漆芸では、中国明時代の存星、室町時代の根来、そして十九世紀琉球の密陀絵で様々な表現をご紹介します。



県文 存星梅竹双鳥図鉢 明15～16C

「婦女喫煙図」アマン＝ジャン筆

## 第4展示室

# すわる・かたち

～人体彫刻～

6月28日(金)～7月21日(日)会期中無休

## 第5展示室

# 人間国宝のわざ

6月28日(金)～7月21日(日)会期中無休

本展は人体をモチーフにした彫刻作品のうち、すわる姿の作品のみを展示するものです。すわるポーズの作品は「立つ」ポーズの作品に比べ姿勢の多様さは元より、手足の動きや持物などが多彩で、また腰かけるものなども多種で、豊富なバリエーションが展開しています。このことは立つに比べ、すわるの同義・類似の言葉が多く見えることから窺えるものです。

このような「すわる」作品では、作品テーマが広がるのととも作品背景の情景や物語性・叙情性など様々な要素との関連も広がりやすくなります。さらに立像作品で必要な「きちんと立って見える」という基本的な難しさからも解放されることが期待される―この点こそ最大のメリットかも

日本は世界に誇る伝統工芸の盛んな国であり、その伝統技術を大切に継承し発展させてきました。しかし、明治維新以降の日本の近代化に伴って社会生活が変化してくると、伝統的な工芸技術が次第に失われてきました。そこで、昭和二十五年制定の文化財保護法では伝統工芸・伝統芸能を無形文化財として保護することを、さらに、昭和二十九年の同法改正により、芸術上または歴史上特に価値の高い技術や技芸を重要無形文化財と指定し、その保持者を重要無形文化財保持者として認定する現行の制度が設けられました。言い換えば、無形的な文化財である「わざ」を保護する目的で、「わざ」を身につけている「ひと」を保持者と認定したのです。それが通称「人間国宝」と呼ば

れる人たちです。

石川県は全国でも工芸水準の高い工芸王国で知られており、重要無形文化財保持者の工芸技術部門の数は、現在、東京・京都と並んで全国でも最多です。それは江戸時代に加賀藩主前田家の美術工芸に対する積極的な施策によって、こうした基盤がいち早く立てられ、一貫して発展を促し、明治以降現在までその伝統が引き継がれてきたからです。

今回の展示では、この石川の工芸を代表する人間国宝の方々の作品をはじめ、当館が所蔵する人間国宝の作品をご紹介します。師から弟子に、親子へと受け継がれたすぐれた日本の、そして石川の「わざ」の数々をご堪能ください。

知れません―それは作品制作における制約減少であり、同時に作品創作の自由度拡大が期待されるものといえましょう。さて「疲れたから座る」というように楽ちんな体位としてイメージされる「すわる」姿ですが、なかでも正座はわが国にあっては正式な座法として躰や作法・礼法の基本としてあり、伝統的な精神文化とも関連が見えるように、すわる姿一つにも各国の生活文化との関連が見え、深い意味を持つものもあるようです。

すわる姿のもつ豊かな展開と多彩な表情をお楽しみください。



「草笛」中島 東洋



象嵌籠銀花器「岑寂樹林」中川 衛

## 第3・6展示室

# 新収集品展

— 絵画・彫刻 —

6月28日(金)～7月21日(日)会期中無休

## 七月の企画展示室

第3展示室、第6展示室では、主に平成二十四年度に収集した日本画、油絵、彫刻の特集展示を行います。二十四年度に新しく収集された絵画、彫刻はすべて寄附と寄託によるものでした。各分野より主な作品を紹介します。

日本画では平成二十三年に逝去した曲子光男氏の作品を六点ご寄贈頂きました。曲子光男氏は日展を中心に、戦後の京都画壇の中核として活躍し、抽象的な表現と風景画を融合させた作品で知られます。今回、昭和三十年代から晩年に至る代表作の収蔵を試みました。その他畠山錦成氏、松崎十朗氏、戸田博子氏の作品を展示します。また「遠き道展」実行委員会より、寄託された優品もご覧下さい。

油彩画では、一月に展覧会を開催し好評を博しました村田省蔵氏より、十一点のご寄贈を頂きました。

た。展覧会では、時代を追うごとに昇華する色彩の妙が記憶に新しいのではないのでしょうか。近年充実をみる稲架木シリーズをはじめ、各時代を代表する作品を収蔵できました。その他、三浦泉氏、浅倉雅子氏、辰巳明子氏、新保甚平氏、宮本三郎の作品も展示します。

本県を代表する彫刻家の一人、野島耕之介氏からは五点の寄附を頂きました。野島氏といえば男性像に秀作をみまますが、近年充実する女性像から「爽秋」を展示します。また第4展示室特集「すわる・かたち」にも出陳していますので合わせてご覧下さい。

なお、二十三年度に寄附頂いた作品から昨年中に出陳がなかった早田楽齋「吉田次太郎肖像」、岡田琴湖「河北潟遊園」も展示します。

加賀友禅技術保存会は現在、一〇名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。第三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方にも出品できるようになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

※毎日午後一時三〇分より作品解説があります。

◇入場料／四〇〇円(三〇〇円)高校生以下無料

※( )内は二〇名以上の団体料金

◇主催／加賀友禅技術保存会

◇連絡先／金沢市小將町八一八

加賀友禅伝統産業会館内伝統加賀友禅工芸展事務局  
電話 〇七六一二二四一五五一

## 第8・9展示室

第35回

# 伝統加賀友禅工芸展

7月7日(日)～7月14日(日)会期中無休



「城塞」村田 省蔵

# 平成25年度の キッズプログラム

## 第7展示室

### 第4回

# 石川県日本画会展

7月10日(水)～7月14日(日)

会期中無休

「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内の発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、新たな日本画の会をスタートして今年で四年目になりました。

二十代の若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。

ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料

◇連絡先／輪島市鶴入町二一三十七

石川県日本画会事務局長 宮下和司

申し込みなしで参加できる小学生親子対象の鑑賞講座です。各講座とも日曜日の十三時三〇分開始、約一時間半の活動で当館コレクション展をはじめとした作品と楽しく出会うプログラムです。参加は無料、ご参加の方は観覧料も無料になります。

◆特集展示「夏休み親子で楽しむ美術館」みる・きく・かたる「みる・きく・かたるうくんになろう！」八月十一日(日)

人物が描かれた作品をよーく見て、その人の声を聞き、そして語りかけてみる。ゲームを取り入れた活動で「みる・きく・かたる」の展示を楽しみましょう。

◆当館企画展「俵屋宗達と琳派」

「屏風がいっぱいーお話ししようー」九月十五日(日)

屏風の作品がたくさん出品される展覧会。どんな作品か話し合いながらじっくり見てみましょう。最後に、どんな場面の作品だと感じたか簡単な絵本に

光風会は、明治四十五年(1910)に上野竹之台陳列館で第一回展を開いてから今年で創立九十九回、来年には百回になります。

今回の展示作品は絵画部では芸術院会員の庄司栄吉、寺坂公雄、藤森兼明を筆頭に金山佳子、杉山吉伸、根岸石司、長谷川仿など、工芸部は岡部昭、丹下健三、桂川幸助。

地元作家は金沢美術工芸大学名誉教授の円地信二、金沢学院大学教授の西田伸一を中心に五十数点、基本作品と合わせると約百点並びます。具象作品でわかりやすく、しかも重厚で深みのある作品が並びますので、ぜひ観ていただきたいと思えます。

◇主催／一般社団法人光風会、北國新聞社

◇入場料／一般 当日七〇〇円 前売り五〇〇円

大学生 当日三〇〇円 前売り二〇〇円

◇連絡先／能美市東任田町イ一九一六四

西房浩一

してみます。

◆特別陳列「能島芳史展」

「アートかるたを楽しもう」十一月十日(日)

今まで出会ったことのないような、ふしぎな世界を描く能島さんの作品。作品を見てのみんなのビックリやワクワク、ドキドキを言葉にあらわしてアートかるたを楽しもう。

◆特別陳列「截金 人間国宝 西出大三」

「きれい！かわいい！ 西出大三さんのきらめく世界」

二月二十三日(日)

金箔を使った高度な技術を必要とする截金技法。彫刻を勉強した西出大三さんならではの木彫の美しい形に施された截金作品を味わえます。截金のもよう見本作りも体験。



## 第7～9展示室

### 第99回

# 光風会展金沢展

7月17日(水)～7月21日(日)会期中無休

# 俵屋宗達と琳派

平成25年9月14日(土)～10月14日(月・祝)会期中無休

主催／石川県立美術館

共催／NHK金沢放送局、NHKプラネット中部、  
金沢宗達会

俵屋宗達の後継者俵屋宗雪が加賀藩の御用を務めたことから、石川県には宗達の流れを汲む宗雪や喜多川相説およびその工房の作品が数多く伝世し、当地の文化、美意識に大きな影響を与えています。

大正二年(一九一三年)、日本美術協会の主催により東京で開催された「宗達記念会」を契機として、宗達が晩年金沢に下り同地で没したとの一伝承が注目され、金沢において俵屋宗達を顕彰しようという機運が高まりました。大正三年に設立された金沢宗達会は、年一回の茶会開催をおして当地における俵屋宗達やその後継者たちの再評価に尽力し、当地での作品発見やコレクションの形成に貢献しました。

本年開館三十周年を迎える石川県立美術館が、俵屋宗達から尾形光琳に至る、いわゆる琳派の作品を所蔵品の中核のひとつとして迎えるのも、このような文化風土によるものと言えることができます。

本展は、日本美術史に実り多い展開をもたらした俵屋宗達の創作の軌跡と美意識を、法華経信仰や芸道思想の観点から重層的に捉えなおし、それが俵屋宗雪らによってどのように継承され、さらに尾形光琳によっていかに新たな息吹を与えられたかを、名作約六十点の展示をおして概観し、日本美の精華と言われる琳派芸術の神髄に新しい光を当てることを趣旨とするものです。

この秋、金沢から発信される「俵屋宗達と琳派」への新たな視点に、是非ご期待ください。



重文「舞楽図」俵屋宗達筆 醍醐寺蔵

## 「俵屋宗達と琳派」関連行事

「俵屋宗達と琳派」に関連してミュージアム・コンサートを開催します。

「藤原真理チエロ・リサイタル」バツハと俵屋宗達の出会い」

◇日時：九月十六日(月・祝) 午後一時三十分～

◇会場：美術館ホール、無料ですが整理券が必要です。

◇曲目：バツハ「無伴奏チエロ組曲第3番 BWV一〇〇九」他

世界的チェリスト、藤原真理氏によるトークを交えた演奏で、バツハの表現世界をわかりやすく紹介します。

ピアノ伴奏：倉戸テル氏

◇申込方法：左記の通り往復はがきで当館までお申込ください。

往信用の表面 〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二一

ミュージアム・コンサート係宛

裏面に申込者の郵便番号、住所、氏名、電話番号。

返信用の表面 申込者の郵便番号、住所、氏名。

裏面は応募結果を印刷するので、何も書かなくてください。

## 七月の行事予定

■土曜講座 午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料	
六日	よくわかる日本画2 団体展からみる日本画
十三日	人間国宝のわざ
二十日	世界遺産を訪ねて6 京都
二十七日	ジャポニスムと日本の工芸 ～印象派への影響～
	寺川和子 学芸専門員
	谷口出 学芸第一課長
	西田孝司 担当課長
	前多武志 学芸専門員

# 第11回美術館バスツアー報告

平成25年5月26日(日)

「湖北の国宝を訪ねて」と題した今回のバスツアーは、日帰りとしては少し足を伸ばし、滋賀県長浜市へ行ってきました。長浜市の四件の国宝、そして竹生島を中心に湖北地方の文化財を巡ろうというものです。

当日は晴天に恵まれ、初夏を思わせる一日となりました。まず最初に訪れたのは国宝「十一面観世音菩薩像」を安置する向源寺です。宝物殿にてご住職に仏像の歴史や構造などを詳しくご説明いただき、その姿が一層美しく見られました。

次の目的地は神照寺です。緑を感じる落ち着いた境内を進み、本堂で寺宝についてご住職に解説いただきました。国宝「金銀鍍透彫華籠」をはじめ、珍しい文化財を鑑賞できました。昼食後は僅かな時間でしたが黒壁スクエアを自由散策し、いよいよ長浜港からフェリーで竹生島へ渡りました。竹生島でまず皆様を驚かせたのが、宝厳寺本堂へと続く一六五段の階段です。見上げるほどの長さで急勾配に啞然…でも上るしかない！と力を振り絞りました。今回は竹生島内の案内を長浜城歴史博物館の北村学芸員にお願いでき、専門的な解説を聞きながらの拝観となりました。分かりやすく熱意ある説明に、参加者の皆様も発見が多く、満足している様子でした。

国宝「唐門」の美しさに見とれ、舟廊下を渡れば最後の見学先、都久夫須麻神社に繋がります。国宝「本殿」の前で禰宜による解説を受け、その建築や竹生島の信仰に思いを馳せるひとときとなりました。

全体に足早での行程となり、申し訳ない思いで一杯ですが、無事にツアーを終えることができたのも参加者の皆様のご協力によるものと感謝いたしております。この場をお借りしてお礼申し上げます。



## この夏注目の展覧会

北海道立近代美術館

札幌市中央区北一条西七十七丁目

「シャガール展」

六月二十九日(土)ー八月二十五日(日)

日本未公開作品を中心に、約二五〇点を三部構成で紹介。

山種美術館

渋谷区広尾三十二ー三三六

「生誕一四〇年記念 川合玉堂ー日本のふるさと・日本のこころー」

六月八日(土)ー八月四日(日)

山種美術館所蔵の全七十一一点の玉堂作品を中心に玉堂の生涯を紹介。

静岡県立美術館

静岡市駿河区谷田五三ー二

「夏目漱石の美術世界」

七月十三日(土)ー八月二十五日(日)

夏目漱石の作品や美術批評に登場する美術家達の作品を紹介。

奈良国立博物館

奈良市登大路町五十番地

「みほとけのかたちー仏像に会うー」

七月二十日(土)ー九月十六日(月・祝)

仏像とは何かを改めて考えていくことがテーマの展覧会です。

新潟県立近代美術館

長岡市千秋三丁目二七八ー一四

「ルーベンスー栄光のアントワープ工房と原点のイタリア」

六月二十九日(土)ー八月十一日(日)

日本初出品のルーベンス油彩画二十二点を含む八十二点で構成。

二塚 長生 ふたつか おさお 平成14年(2002) 第49回日本伝統工芸展



本作は、作者が大聖寺・片野の鴨池に取材した風景を作品としたものです。濃紺地の着物全面に、線と点で表された雨の中、後ろ身頃の右背面と左裾、右袖裏に鷺が佇んでいます。降りしきる雨は、向かって左斜め上から左右に分けて、右は線、左は点で描き分けられ、鴨池の空間的な広がりや、時の移り変わりを表すようです。

また鷺の姿は三羽いるようにも、あるいは一羽の鷺の異なる姿ともみることができ、平面の中に時間と空間の奥行きが加わった作品であり、立体である人間の身体を包むものとしての着物にこだわった、作者のゆるぎない制作への思想が貫かれています。

雨の点と線は、友禅染の「糸目糊」で描かれています。江戸時代初期に生まれた多色染め技法の友禅は、生地の上に絞り出した糊の部分が染まらないことを利用し、輪郭線に糊を用いて絵画のような華麗な表現を可能にしましたが、作者はこの糸目糊を表現の主体とした「白揚げ」の技法で、現代の友禅に新たな可能性を広げました。

絹の生地を透かして糸目糊の線との絶妙な調和、鷺の凛とした存在感。平成二十二年に重要無形文化財「友禅」保持者に認定された、作者の熟練した技術が冴え渡る代表作の一つです。

次回の展覧会

会期：  
7月25日(木)～9月9日(月)  
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 350円(280円) 大学生 280円(220円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(7月は1日) 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休 7月の全館休館日 22日(月)～24日(水)
特別陳列 尊経閣文庫名品展 —国宝水左記を中心に—		古九谷とその展開		
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	企画展示室	
コレクション優品選	石川の工芸Ⅱ	夏休み 親子で楽しむ美術館 みる・きく・かたる	エミールクラウドと ベルギーの印象派展	

毎週水曜日は  
Meiカード  
ポイント  
プラスデー

Meiカード  
通常ポイント + 3%  
ポイントプラス

※催事場、地産食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

MEITETSU  
MIZA  
めいてつ・エムザ  
金沢・むさしが社 TEL代表(076)260-1111  
http://www.meitetsumza.com/  
10時～20時 ●地階レストラン街・書庫は21時まで

石川県立美術館だより  
第357号(毎月発行)  
2013年7月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL:http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/